

事例１ 保護者の福祉支援を要するケース

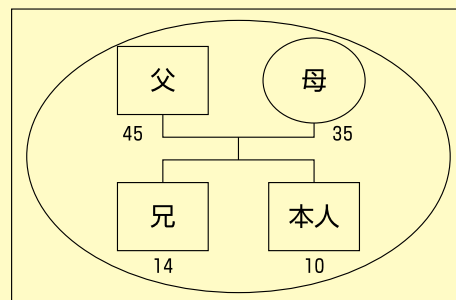
◆気になる状況

【相談内容】

小学校４年男子 家庭の教育力が弱く、完全不登校

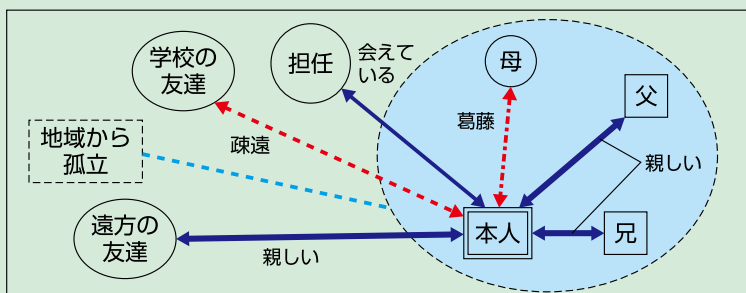
【経緯と現状】

幼少から両親の関係が悪く離婚再婚を繰り返し、転居を数回行ってきた。小学校２年から不登校である。父親は病弱で仕事が継続せず現在は求職中、母親は精神的に不安定で身体的な障害があり家庭の教育力は弱い。中学生の兄も完全不登校である。地域でのつながりも弱く、学校は支援の糸口が見つからず困惑している。



◆アセスメント（見立て）

- 本児童**：両親の関係や家庭機能の低さなどにより、不安が大きく自分に自信が持てない状態である。しかし、個別や小集団では他と関わる事が可能である。
- 家庭**：転居や保護者の対人関係の問題から、地域とのつながりが希薄で孤立している状況。しかし、公的機関等の支援を受け入れることは可能である。

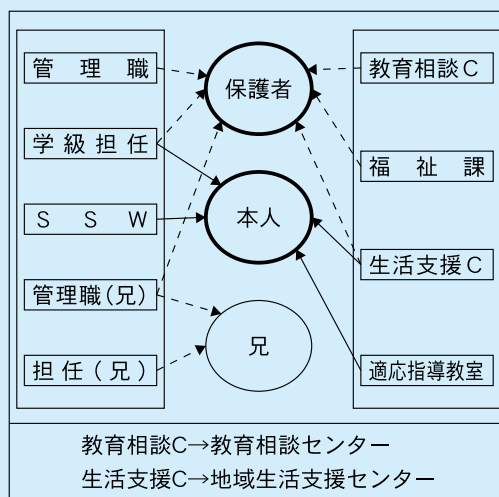


◆当該児童生徒・家庭への支援（役割分担）

長期目標：保護者の精神的安定と生活安定、子どもたちの再登校

短期目標：継続的な保護者相談の実施と本児童の家族以外との関係構築（適応指導教室への通室）

- 学級担任**：本児童や保護者との関係を築き、学校の情報提供と、学習支援や適応指導教室についての紹介や相談を行う。
- 管理職**：本児童と兄の学校の管理職が連携し、保護者と定期的な面談の機会を設ける。
- SSW**：学校、福祉課、教育委員会、地域生活支援センターがスムーズに連携できるようにケース会議を行う等の関係調整を行う。
- 支援内容**：福祉有償運送制度（社会福祉法人等が、会員登録された身体障害者や要介護認定者等を対象に、実費の範囲内の料金で行う自家用自動車を使用した移送サービス）を活用し、母親が本児童を適応指導教室に送迎できるようにする。また、学校等と関係機関が密接に連携し、保護者にそれぞれの立場で関わり、保護者の悩みを聞くとともに、具体的な方法についてアドバイスを行う。



◆当該児童生徒・家庭の状態の変化（成果等）

適応指導教室で本児童は生き生きと活動するようになり、同年代との人間関係も築くことができ、担任を通じて学校や学習にも興味を示すようになった。父親は本児童の送迎を行うようになり、その後仕事に就いた。母親は相談の機会を得ることで精神的に安定した。しかし、兄の状況には変化がなく、継続的に取り組む予定である。

◆本事例のポイント

- 関係機関の連携強化
- 教育支援及び福祉支援の活用
- 家族（家庭）への個別相談の活用

